

## V 臨時的調査研究の概要

本研究への取り組みの可能性を探る予備試験、あるいは情報収集として次の課題を実施した。今後関連する研究への手がかりとなる情報が得られた。

課 題 名	内 容	担 当 者
積雪地における各種ツリーシェルターの実証試験	<p>ツリーシェルターの耐雪性能を確認するため、最大積雪深が 2 m を越える調査地において 4 種類のツリーシェルターを設置し、融雪後の破損状況を調査した。</p> <p>積雪による倒伏や変形等の被害率は 83～99% と非常に高かった。被害を受けたツリーシェルターの多くは修復不能であり、最大積雪深が 2 m を越える地域でのツリーシェルターの設置は避けた方がよい。</p>	矢部 浩
作業道盛土簡易検査法（FK 式貫入試験）の判定基準作成のための補完的試験	<p>粘性土における作業道盛土簡易検査の判定基準を作成するため、貫入試験用モールドとランマを自作し、貫入量と突き固め度の関係を調べた。</p> <p>FK 式貫入試験器で 3 kg の錘を 5 回落下させた時の貫入量と締め固め度は、締め固め度が低くなるにつれて貫入深さも深くなる傾向にあった。粘性土の場合も真砂土の場合と同様に貫入量 25 cm を判定基準として適用できる可能性が示された。</p>	矢部 浩
マイクロ波含水率計と全乾法による含水率の相関の解明	<p>携帯型マイクロ波含水率計の特性把握及び繊維飽和点付近における測定精度を向上させるための設定条件、補正方法などの検討を行った。</p> <p>試験に用いたマイクロ波含水率計は、含水率が 30% を超えると急激に誤差が大きくなり、電圧減衰量 1.5V 以上では測定値の信頼性が低いことが確認された（ただし、機器に入力する条件値はメーカー指定値とした）。</p> <p>スギ材では、電圧減衰量 1.6 以下の場合において電圧減衰量と誤差率の関係式を用いて補正を行うことにより精度の向上が可能であると考えられた（ただし、機器に入力する条件値はメーカー指定値とした）。一方、ヒノキ材については、高含水率域の電圧減衰量データを得られなかったことから、今後、データの収集と分析が必要である。</p>	高橋秀彰